

## 世界理解月間によせて

国際ロータリー第2660地区

ガバナー **横山 守雄**

ロータリー章典で、2月は「世界理解月間」と指定されていますが、各ロータリアンは、この時期に改めて世界の平和と友好についてよく考えてみようというのが、「世界理解月間」の主旨かと思います。

一方、ポール・ハリスはじめ、ロータリーの創始者4人がシカゴで初めて会合を開いた1905年2月23日はロータリーの創立記念日となっていますが、その後、この日は「World Understanding and Peace Day」と定められていることからみても、ロータリー活動が、シカゴの街中の一つのLocalな場所から、世界理解と平和を目指す国際的活動へと活動の範囲が広がって行ったことが分かります。そして1917年にロータリー財団の活動が始まったことで、ロータリーのWorldwideな活動が一段と活発になって行きました。

私たちロータリアンが「世界理解と親善」を本当に理解し、体験出来るのは、自分のクラブのWCSプロジェクトに実際に参加し、現地へ赴き、人々と交流を行った時に初めて会得できるのではないかと思います。幸いにも当地区では、殆どのクラブが

独自のWCSプロジェクトを毎年実施しておりますから、クラブレベルでの国際奉仕と交流の機会は数多くあります。出来るだけ多くのロータリアンがWCS活動に参加し「世界理解と親善」を体感されることが望まれます。

もちろん、ロータリーにはWCS活動のみならず、国際親善奨学生の派遣や受入、米山奨学生の受入、GSEチームの交換、青少年交換、など「世界理解と親善」に資するいろいろなプログラムがあります。また、各クラブの皆様がこの様なロータリーの多様な活動プログラムへ参加されることが、クラブの活性化につながります。クラブリーダーの皆様は出来るだけ多くの会員が、これらの国際的な活動に何らかのかたちで参加されますように是非ともお導きください。そしてロータリアンの様々な「夢がたちになる」ことを願っております。